

2018年05月08日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国雇用統計など】

5月2日(水)は、ゴールデン・ウィークの真っ最中で、市場参加者が少ない状況下でしたが、FOMCがありました。

今回のFOMCは、事前の予想通りに、政策金利は据え置きとなり、大過なく終わった印象です。

そして、まさに、ゴールデン・ウィークの真っ最中の5月4日(金)には、米国雇用統計の発表がありました。

米国失業率の事前予想が4.0%に対して、発表された結果は3.9%で、これは、事前予想よりも良い内容でした。

ところが、非農業部門雇用者数(NFP)は、事前予想が+19.3万人に対して、発表された結果は+16.4万人で、こちらは、事前予想よりも悪い内容でした。

ただし、前回の非農業部門雇用者数(NFP)が、+10.3万人から+13.5万人に上方修正されています。

それで、今回の米国雇用統計は、トータルで見れば、「可もなく、不可もなし」といったところで、マーケットに、大きく影響を与えない、と判断しています。

一般論で言えば、雇用統計は、遅行指標と呼ばれる類で、それまでの状況を、時間的に遅れて発表する数値です。

つまり、米国の経済状況は、雇用統計で見ると、ほとんど「完全雇用状態」であり、もうこれ以上良くなることも無い程、良い状態であったことを示しています。

だから、最近の米国雇用統計は、その注目度が低下している状況です。

+++++

当面のところは、米国の経済指標よりも、米国の外交に、マーケットの関心は集中するの

だろう、と考えます。

既に、南北首脳会談が開催され、非核化と恒久平和が協議されましたが、この件に関しては、最終的には、米朝首脳会談に持ち越しています。

米朝首脳会談は、6月上旬までに、開催される予定のようです。

だから、それまでは、トランプ大統領のツイッターなどでの発言も、大いに注目される、と考えます。

+++++

ゴールデン・ウィーク直前には、ECB理事会もありましたが、実際のところ、これと違って取り上げる内容も無く、次回のECB理事会に持ち越した印象です。

ECB（欧州中央銀行）は、テーパリング（量的緩和策からの撤退）に向かっている、と考えます。

しかし、今年の9月までの量的緩和策が、既に発表されているので、テーパリングが実施されるとしても、最も早い時期で、今年の10月からになります。

ECBは、マーケットと対話するスタンスで、事前にECBの決断を示すのだろう、と考えますが、今のところ、その決断は、先送りしている様子です。

+++++

日本の金融政策は、全く変更が見当たらない状況です。

当面のところは、日銀の政策は、日本の外交と同様に「蚊帳の外」と考えます。

+++++

（2018年5月08日東京時間15：45記述）